

前エントリーに「瀬戸氏に問う」のHNで長々と文章が書き連ねてありました。これまでも何度も貼り付けられて来た文章であり、読者の皆様にとっては「またかあ〜」とウンザリした方も多いのではないか。

いつもならコメント管理を任せている弟子が削除するところでしょうが、本日は一応答えておくことにします。しかし、これで調子に乗って続けるようであれば、今度は容赦なく削除させて頂きます。ここは本来は私を支援する人達の交流の場であり、一方的な自己満足を求める場ではありません。

壊れた蓄音機という言い方があります。同じことを何度も繰り返すことです。この方の「瀬戸氏に問う」はまさにその典型的パターンであり、今回も目新しいものはありませんが、敢えて取り上げるのは、この辺りで私の思想的・政治的な立場を改めて明らかにしておく必要もあると感じたからです。

なぜ、感じたかについては別エントリーで述べますが、現在勃興するナショナリズム運動に政治性や思想性が必要になる時が必ずやって来るし、世界観も含めてそのようなものがあって初めて祖国の大変革を目指す運動へと発展するとは、前々からの私の持論でもあり、その辺りも含めてお答えしていくつもりです。

.....

> 嘉手納・普天間・横田・横須賀・佐世保・岩国を初め日本列島全体が米軍基地だらけである。

前のエントリーですがいわゆる国内法を上回る日米地位協定に基づく治外法権という世界最大の特権を米国人に与えた与え、その在日米軍基地を維持させるために毎年何千億もの思いやり予算を原発利権同様、自民党が在日米軍基地利権で世襲制度と官僚の天下り制度を維持させるために、を官僚が需要予測を大幅に捏造して無駄な公共工事（狭い日本に100個近くも地方空港を作った）を行うために湯水のごとく国債を発行してきた結果、自民党を支持してきた自称保守が最貧困層になったにも関わらず消費税を上げるのだから自称保守は自民党に何一つ文句を言えなかった原因も分かってきました。戦後自民党を戦前の大政翼賛会史観の原型である島国鎖国文化の土農工商史観で盲目的に信じてきた者を保守と呼ぶことはできないのは、米国の世界戦略を遂行させるための米軍再編問題を日本の国防のためと己自身を欺いた欺瞞から信じきっていたからである。

.....

まず明確にしておきますが、私は反米論者ではありません。反米には左翼イデオロギーによる反米論者とナショナリズムによる反米論者との大きく分けて二つありますが、どちらも日本を危うくさせる道であり、危険思想と断じて来ました。

左翼イデオロギーによる反米とは、米軍を日本から追い出し、日本の周辺の左翼国家と結んでその国からの侵略を容易にさせる環境を作る為に唱えられて来たものです。左翼共産主義国家に日本を解放してもらおうという左翼思想を持つ者でなければ思いも着かない妄想の類でもある。

左翼は戦後の日本を天皇陛下を頂点とする日本支配層が独占資本と結託し、米国の庇護の下に日本人を奴隷のようにこき使い搾取し続けて来た、よって民衆は米軍や警察権力と戦い、日本を解放すると主張してきましたし、極左は今も同じ主張です。

左翼共産主義は建前は民族や国家を否定してきたので、日本という国家が消滅しても一向に構わない、旧ソ連があった時にはそれが正しい革命路線とされ、旧社会党の過激な青年組織には旧ソ連の共和国になっても日本人は幸せになれるかのような主張さえ散見された。

さて、旧ソ連が崩壊し国際情勢は大きく変化したが、この変化をもたらしたのは米国・日本・西欧諸国の自由主義連合ががっちりスクラムを組んで、共産主義という暴虐の輩による危険思想の浸透や革命工作を撥ね付けてきたからです。

冷戦に勝利した最大の功績とは自由主義陣営の集団安全保障体制であり、日本が戦後左翼共産主義の侵略から祖国を守り抜いてこられたのは、米国との同盟関係があったればこそであり、もし

日本に米軍の存在がなかったら今頃、日本という国家は世界地図上に存在しません。

この戦後史を正しく理解して許容するか、或いはこれに反発してそれを認めようとしなないか。そのことによって主張はおのずから大きく変わるのであって、自らの立場を鮮明にしなければならない。しかし、残念ながら相手がどのような政治・思想運動に関わってきたかまでは、こちら側としては知り得ないので、ようするにこれは言っても無駄に終わる可能性が高いが、先ずは己の思想的立場を明らかにしてから論争に臨むべきである。

米軍の日本におけるプレゼンスと西欧ヨーロッパ特に旧西ドイツにおける米軍のプレゼンスこそがアジアの共産化とヨーロッパの共産化を阻止した。阻止したということは、人間の普遍的価値である自由・民主主義・基本的人権が奪われずに、我々は人間らしい生活を享受出来たということです。



旧ソ連崩壊で明らかとなった数々の人権侵害、東欧社会における共産主義体制の恐るべき実態、そして今尚続く共産党支配下にある共産中国と北朝鮮における人権侵害。もし、米軍が日本を見捨てていた場合、日本の運命は戦慄すべきものだったことは容易に想像出来ます。

立派だったのは日本を見捨てることをしなかった米国ではなく、米国と共に平和と繁栄を目指した自民党政府とそれを支持し続けた圧倒的多数の日本国民であったことは言うまでもない。あの冷戦の最中に、もしも日本国民が社会党と共産党の民主連合政府を支持するような愚かな行為をしたら、一体日本はどうなっていたか？

考えるだけでも恐ろしい。暗黒の社会の中で日本民族はジェノサイドに怯えて暮らしていたでしょう。今のチベット・東トルキスタンの惨状が今の日本であった可能性は確実なものです。日本人・日本民族は聡明であったからこそ、その難を逃れ今でも世界では珍しく平和で穏やかな社会を形成しています。

自民党は長い間、政権の座にあったので腐敗したことは事実であり、清新さも失った。そして今度は形を巧妙に変えた新しい売国勢力によってマスコミが牛耳られ、そのマスメディアの世論工作によって選挙で大敗した。

自民党は生まれ変わらなければならない。私はそう信じているし、このまま民主党に政権を任せておくことは非常に危険な道を突き進むこととなります。次なる政権の最大の使命は日米関係の再構築であり、強大化するシナ・共産中国の軍事的脅威に対抗し得る日米軍事同盟の更なる再編強化でなければならない。

第17回「日本の心を学ぶ会」は『日米関係論 アメリカといかに付き合うか』となっています。正しい日米関係を目指したいと思う方は是非話を聞きにおいで下さい。

<http://nihonokokoro.blog21.fc2.com/blog-entry-24.html>

【日 時】平成23年10月30日(日) 午後1時45分開場 午後2時開会

【場 所】港区生涯学習センター(ばるーん) 東京都港区新橋3-16-3

JR新橋駅下車 烏森口徒歩3分

地下鉄 浅草線・銀座線・ゆりかもめ新橋駅下車4分

【演 題】日米関係論 アメリカといかに付き合うか

【登壇者】講師：瀬戸弘幸先生 せと弘幸Blogu 『日本よ何処へ』

[http://blog.livedoor.jp/the\\_radical\\_right/](http://blog.livedoor.jp/the_radical_right/)

講師：四宮正貴先生 四宮正貴政治文化研究所

<http://www.max.hi-ho.ne.jp/m-shinomiya/>

司会者：松本創 日本の心を学ぶ会 事務局長

【参加費】資料代500円 終了後 近隣で懇親会(3千円くらいの予定です)

【連絡先】日本の心を学ぶ会事務局

埼玉県川口市安行藤八33-13 電話 090-8770-7395

問い合わせは、新橋生涯学習センターではなく、日本の心を学ぶ会事務局までお願いします。

行動するジャーナリストが  
現下の祖国日本に  
渾身の愛と力を込めて筆を揮う！

わからない事は  
調べましょう！

検索

政治プログラムキング  
【政治部門】4位  
(2011年10月16日時点)